総合研究院

アグリ・バイオ工学研究部門

公開セミナーのお知らせ

1. 日時　　11月6日(水曜日) 17:00:～18:10
2. 場所　講義棟501教室

（３）セミナーの内容について

　春ならジャスミン、秋ならキンモクセイなど四季の移ろいを花の香りで感じることがあると思います。夏ならシャーベットに載せられたミントの清涼感、冬ならこたつでみかん。私たちの身の回りには植物が出す様々な香り化合物があり、私たちの生活に彩りを与えてくれています。では、植物はなぜ香り化合物を出すのでしょう？

　花や果実の香りは受粉媒介者や種子散布者を誘引するためです。花も果実も色と形、そして香りで昆虫などを誘引し、蜜や果肉を報酬として差し出す代わりに花粉や種子を運んでもらいます。一方、葉や根も香ります。しかし、葉や根は昆虫など他の生物に何かしてもらうことはなく、報酬を与えることもありません。それでも香るのは防衛のためです。みどりの香りは植物特有の香り物質で、植物の体が強風でこすれたり、虫に食べられたりして傷つくと放出されます。この香りは傷口から病原菌が侵入するのを防ぎ、植物を食べる害虫を駆逐してもらうために肉食性の虫を誘引します。このようにみどりの香りは外敵に対する防衛を担っています。また、植物どうしが香り化合物を使って情報交換する例が知られています。このように植物は自らの生存戦略のひとつとして香り化合物を作り、放出しています。しかし植物の外敵の中にはこの戦略を巧みに回避したり、逆手に取ってうまく利用したりするものまでいます。今回のセミナーでは植物の葉の香り、特にみどりの香りがどのように植物を防衛するのか、そうした防衛を効率化するためにどのような仕組みでみどりの香りを生成するのか、そして植物を取り巻く植食者はそうした防衛をどのように打破しようとしているのか、について私たちの研究成果を中心に紹介させて頂きたいと思います。

　　　　招待講演

　　　　　時間：17:00～18:10

　　　　　演題：「植物はなぜ香りをつくるのか〜葉の香りによる生存戦略〜」

　　　　　講師：松井健二　教授(山口大学大学院創成科学研究科（農学系)）

　　　　　場所：講義棟501教室

世話人　基礎工学研究科

生物工学専攻

有村　源一郎